

教科書(テキスト)、参考書を「理解」するための読み方とは

「うん、なるほど」と「よくわかる」ための具体的方法

開倫塾

林 明夫

Q 学校の教科書や開倫塾のテキスト、参考書などはどのように読んだらよいのでしょうか。もっと言えば、どのように「うん、なるほど」と「理解」したらよいのでしょうか。ただ読んでいたのではよくわからないような気がしてなりません。

A (林明夫、以下省略)よい質問ですね。

(1)本にはいろいろな種類のものがあります。マンガの本や軽い読み物などはスラスラ読めます。このような本は、本を出すことを職業としている作家や編集の方々が、スラスラ読めるようにと工夫をして本を作っています。ですから、読者である皆さんがスラスラ読むことができるのだと私には思えます。

(2)ただ、学校の教科書や開倫塾のテキスト、参考書は、勉強しなければならない内容を皆様に伝えるために作られているものですから、マンガや軽い読み物のようにスラスラと読めば、すべて「うん、なるほど」と「よくわかる」、つまり「理解」することは難しいと私は考えます。

Q では、どのように読めばよいのですか。

A 学校や開倫塾の授業で先生からお話を聴くようなつもりで、どうか一言一句かみしめるように、ゆっくりゆっくりと読むことをお勧めします。一語一語ゆっくりと、「ああ、これはこのようなことなのか」と「そうか、そうなのか」と意味を考えながら、学校の教科書や開倫塾のテキスト、参考書は読んでください。

Q 読んでいてわからない「ことば」があつたらどうすればよいのですか。

A (1)面倒臭いと思わないで、辞書(国語辞典や英和辞典など)を引いて調べましょう。1つ1つのことばの意味を辞書で確かめ、「ああ、これはこのような意味だったのか」と十分納得、「理解」することが大切です。

(2)辞書で調べた「ことば」の意味は、必ず教科書やノート、ポストイットなどに書き写しておくことが大切です。書き写すことを決して怠らないことです。

(3)書き写した「ことば」とその意味はその日のうちに何回も声を出して読み(「音読練習」をし)、その意味を何も見ないでスラスラと口をついて言えるまでにすること。また、スラスラと意味が言えるようになったら、何回も正確に書く練習をして(「書き取り練習」をして)、正確に書けるようにしましょう。

(4)学力を身につける上で大切なことは、正確な意味を知り、また、その意味が正確に言え、正確に書ける「ことば」の数を少しずつでもいいから着実に増やすことです。

(5) 1日に10ずつでも、自分にとって不確かな「ことば」の意味を辞書で調べ、教科書やノート、ポスト・イットなどに書き写し、その意味を覚え、正確に言えるようにし、また、「楷書」(教科書の書体)で正確に書けるようにすると、1年で3650、10年で36500の「ことば」が身につきます。

(6) 勉強というのは蓄積が大事です。1日に10ずつ身につければ、1年で3650、10年で36500の「ことば」が身につきます。努力は報われます。コツコツ、コツコツと辞書を活用して「ことば」を身につけてくださいね。

Q 国語辞典や英和辞典を引いてもよくわからない「ことば」や「学習内容」もあります。どうしたらよいのですか。

A (1) そのようなときに役に立つのが、各教科の「学年別参考書」です。

(2) 学校の教科書や開倫塾のテキストを読んでいてわからない「ことば」が出てきたら、まずは国語辞典と英和辞典で調べ、それでもわからないときには各教科の「学年別参考書」で調べることをお勧めします。

(3) 少し厚目(あつめ)の、説明がていねいでわかりやすい全部の教科の「学年別参考書」を、いつも手元において「辞書」代わりに活用することが賢い勉強方法と私は考えます。

(4) 「学年別参考書」で調べた内容は、辞書で調べたときと同様に、教科書やノート、ポスト・イットなどに書き写しておくこと。また、書き写した内容はその場で「音読練習」をして何も見ないでスラスラ言えるまでにしておくこと。「書き取り練習」をして、何も見ないで「楷書」で正確に書けるまでにすること。必ず実行すれば、知識は少しずつですが確実に身につく、努力は後の日に必ず報われ、学力は飛躍的に向上します。

Q 最後に付け加えることはありますか。

A (1) 「理解」をする上で、学校の教科書や開倫塾のテキストを読む上で、特に大切なのは「ことば」の意味、つまり「は～だ」という「定義」です。正確に1つ1つの意味を「うん、なるほど」と「理解」し、もしできればその場で繰り返し、繰り返し「音読練習」と「書き取り練習」をし、確実に身につける(「定着」さす)ことをお勧めします。

(2) 学校の教科書や開倫塾のテキストにある「計算問題」や「練習問題」は、そこに書き込まずにすべてノートに自分の力で解いてみるのが大事です。教科書やテキストに書き込んでしまうと、問題を繰り返しやり直すときに不便だからです。

(3) 既に答えを書き込んでしまったものでも、なぜそのような答えになるのか十分「理解」できている問題については、問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解が出るように「計算・問題練習」を繰り返しましょうね。

このような努力は必ず報われます。勉強に遠慮は要りません。自己責任、自助努力で自分の未来は自分で切り開く。今回お話しした方法でどんどん学校の教科書、開倫塾のテキストを勉強して、これからの分を「予習」、今まで勉強したところを「復習」して下さいね。

- 8月12日記 -